

は ら の ご う う な ぎ さ わ  
原之郷鰻沢遺跡

事務所・工場建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

## 序

富士見村の南西部に位置する原之郷地区には数多くの遺跡地が存在しますが、これまで  
は原営ほ場整備事業や民間開発に伴って、わずかな地点で発掘調査を行ったにすぎません。  
特に、現在の赤城白川右岸は氾濫原となっており、原之郷地区の中では最も遺跡の希薄な  
地域であると言われていました。

今回発掘調査を行った原之郷變沢遺跡は、この赤城白川の氾濫原の縁辺の台地上に位置  
しているとはいえ、やはり、白川の影響下にあり、遺跡があるはずがないと思われていま  
した。しかし、発掘調査を行った結果、平安時代の集落が発見され、さらに、周辺の遺物  
散布調査により、かなりの規模の大きな集落であることも推測されています。また、遺構  
は検出されていませんが、縄文時代の土器や石器も出土しており、頻繁に赤城白川の洪水  
に悩まされながらも、力強く生活を営んだ先人の足跡が確認された意義は大きいと言わね  
ばなりません。今後、さらにこの周辺で発掘調査を行う機会があれば、埋蔵文化財が希薄  
であるといわれたこの地域の実態も徐々に解明されていくものと思われま。

最後になりましたが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきました竜利自動車  
板金塗装有限会社の竜利功氏、ならびに関係者各位に心より謝意を表し、序といたします。

平成10年3月

富士見村教育委員会

教育長 浅井 多津男

## 例 言

1. 本書は工場・事務所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県勢多郡富士見村大字原之郷字殿沢1297-1外に所在する。
3. 調査期間は平成9年4月15日から平成9年4月25日である。整理作業は平成10年3月31日までである。
4. 発掘調査は、事業者である竜利自動車板金塗装協会の委託を受けて、富士見村教育委員会が実施した。
5. 調査体制は、教育長 鈴木清茂（～4月）、浅井多津男（4月～）、社会教育課長 品川良治、課長補佐 樺沢幹男、主査 羽鳥政彦（担当）である。
6. 遺構実測の一部は佃丹生サーヴェイに委託した。
7. 本書の編集・執筆は羽鳥が行った。遺物実測、図版トレース・版組は船津かほろが行った。
8. 発掘調査に係る資料は一括して富士見村教育委員会で保管している。
9. 発掘調査参加者は以下のとおりである。  
木村利男 関口照子 角田なみ 奈良美江 船津あや子 船津かほろ 本望充子

## 凡 例

1. 遺構図方位記号は座標北を表している。
2. 挿図縮尺は以下のとおりである。  
全体図 1/300 遺構図版 1/60 遺物図版 1/3
3. 第1図は国土地理院発行1:25000地形図「澁川」を用いた。第2図は富士見村役場発行1:2500原形図を1:5000に縮小し用いている。

## 目 次

### 序 例 言 凡 例 目 次

I. 調査に至る経緯と調査の経過	1
II. 遺跡の位置と遺跡地の地形	1
III. 周辺の遺跡	2
IV. 土層堆積	3
V. 検出された遺構と遺物	4
①概 要	4
②平安時代の遺構と遺物	4
③時期不明の遺構	5
VI. ま と め	5
写真図版 抄 録	

## I. 調査に至る経緯と調査の経過

平成9年1月、開発協議審査委員会に筈利板金塗装(株)より自動車修理工場及び事務所建設を行いたい旨の協議書が提出された。開発予定地周辺にはこれまで遺跡の存在は知られていなかったが、遺物散布調査を行ったところ、土器片、石器の散布が認められたため、審査会においてとりあえず試掘調査の必要がある旨意見をを行った。同年2月、事業者より村教育委員会に調査依頼書が提出された。同月、試掘調査を行ったところ、平安時代と思われる遺構・遺物、及び縄文時代の土器・石器片が検出された。この結果を受けて事業者と遺跡の保護について協議を行ったが、開発の意志が堅いため、遺構・遺物が検出された工場部分は、発掘調査を行い記録保存を図り、削平の及ばない駐車場については盛土を行い、現状保存とすることが合意された。

発掘調査は同年4月15日に着手した。調査面積が少なく、また、遺構・遺物の密度が少なかったこともあり25日には終了した。

## II. 遺跡の位置と遺跡地の地形

調査地は富士見村の中でも最も南寄り（前橋市寄り）で、なおかつ西に寄った原之郷地区に位置する。富



第1図 遺跡の位置及び周辺の遺跡 (S = 1/25000)

土見村役場のほぼ真南約1.5km、津久田停車場・前橋線（通称 石井県道）の東約400m、原之郷から富士見中学校に向かう道路の西側に位置する。遺跡地から西（～北）側は畑地、東（～南）側は水田として利用されている。

遺跡地の東約400mには赤城白川がゆるやかに蛇行しながら南西に向かって流下している。遺跡地と白川の間の水田地帯は氾濫原であり、埋蔵文化財の希薄な地域である。巨視的に見ると、遺跡地はこの氾濫原に面した比較的平坦で南西傾斜する広大な台地の東端に位置していることになるが、調査地の西側には浅い谷状の地形が認められ、調査地自体は幅40m程の狭い台地上に占地している。しかし、調査地の北側あるいは南側には広範囲に遺物の散布が認められ、明確な範囲は不明であるものの、かなり広い範囲に遺跡地が展開するものと思われる。

### III. 周辺の遺跡

調査地周辺ではこれまでほとんど発掘調査が行われていない。富士見村では遺物の詳細散布調査が行われていないため、遺跡の所在状況も不明な地区が多い。

本調査地の乗る台地上には、地形的にみて他にも遺跡の存在が予想されるが、富士見村誌や群馬県遺跡台帳にも記載は少ない。本跡の約800m北東には「鎌塚古墳」があったとされるが、現在ではすでに削平されて

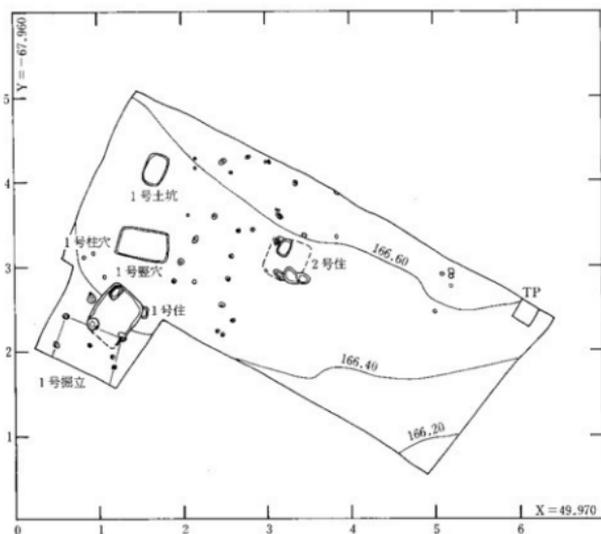


第2図 周辺の地形（S = 1/5000）

おり、痕跡さえも確認できない。既調査地では平成7～8年度に調査を行った久久保遺跡（第1図2）が南方約1.5kmに位置し、縄文時代中期前半～中葉を中心とする遺物包含層、古墳～平安時代の集落（竪穴住居跡約100軒、掘立柱建物跡約50棟等）を検出しており、本年度も古墳時代の住居跡1軒と中世の溝跡を調査している。北方約900mには昭和62年度に調査を行った久保田遺跡（同図3）があり、縄文時代前期初頭の集落、古墳～平安時代の集落等を調査している。さらにその北方には同年に調査を行った由森遺跡（同図4）があり、縄文時代前期の集落と平安時代の集落を調査している。またその東方の白川遺跡（同図5）では縄文時代前期・後期の住居跡と古墳時代及び平安時代の集落を検出している。北東方約500mには本年度調査を行った小沢の場遺跡（同図6）があり、古墳時代の溝跡、平安時代の集落等を検出している。東方約1kmには時沢中谷遺跡（同図7）があり、平安時代の集落を調査している。

#### IV. 土層堆積

本村の一般的な土層堆積は、関東ローム層の上に黒ボク土、淡色黒ボク土、C軽石を含む黒色土、黒褐色土が堆積する（但し、黒ボク土の堆積は通常高標高の地帯のほうが厚い。）が、低標高に位置する台地上は後世の耕作などにより堆積土層が激しく削平されていることが多い。本遺跡地でも厚さ20～40cmの表土直下にロームが現れ、遺構・遺物の残存状況は良くない。



第3図 原之郷鵜沢遺跡全体図 (S = 1/300)

## V. 検出された遺構と遺物

### ①概 要

本調査区域から検出された遺構は平安時代の堅穴住居跡2軒、堅穴状遺構1基、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、柱穴、時期不明の小ピット群である。遺物は平安時代の遺物が各遺構から少量出土している。遺構外からは縄文時代の土器破片が少量出土している。また、試掘の際にも土師器、須恵器が出土した。

### ②平安時代の遺構と遺物

#### 1号住居跡

2-2グリッドに位置する。1号掘立柱建物跡と重複するが、カマドと1号掘立柱の柱穴との切り合いにより、本跡が新しい。南壁は耕作溝によって削平されている。東西2.5m、深さ5cm前後を測り、南北は約3.4mが残存するが、削平された部分はごくわずかと思われる。平面形状は歪んだ隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-33°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、カマド前面は中央部が楕円形状に若干窪んでいる。また、この部分は特に良く踏み固められている。幅10cm前後、深さ5cm前後の周溝が巡る。南西隅部には長径75cm、短径55cm、深さ34cmを測り、楕円形を呈する土坑が検出され、覆土上層に礫が数点出土している。北西隅部には長径90cm、短径50cm、深さ30cmを測り、隅丸方形を呈する土坑が検出され、底面密着で内黒の須恵器椀が出土している。北東隅の壁外には一辺50cm前後、深さ7cmを測り、隅丸方形を呈する土坑が、住居内から掘り込まれるような形で検出されている。但し、本跡との関係は明確ではない。カマドは東壁の南寄りにつ設されている。燃焼部の大半は壁内に位置しており、底面から須恵器製の破片が出土している。遺物は前述したもの以外に、床面直上から内黒の須恵器椀、灰軸陶器皿が出土している。

#### 2号住居跡

3-4グリッドを中心に位置する。床面の大半が削平されており、壁はまったく残存していないが、薄い貼床等の範囲から、おおよその規模は把握できた。東西約2.3m、南北約2.5mを測り、ほぼ隅丸正方形を呈する。主軸方位はN-24°-Eである。床面はカマド前面が東西に長い楕円形状に窪んでおり、非常に良く踏み固められている。長径105cm、短径75cm、深さ12cmを測り、楕円形を呈する土坑が、北西隅の壁から若干離れた位置に検出されている。本跡との新旧関係は明瞭には不明であるが、検出位置等の状況から本跡に伴うものと考えている。カマドは東壁の南端につ設されている。燃焼部が壁外に位置するタイプである。焚口の小ピットには多量の灰が認められた。遺物はカマド燃焼部から土師器甕、須恵器坏等の破片が少量出土しただけである。

#### 1号堅穴状遺構

3-2グリッドに位置する。東西3.0m、南北約1.8m、深さ38cmを測り、南辺が若干長い隅丸長方形を呈する。長軸方位はN-86°-Wである。底面は平坦で、壁面は直に立ち上がる。床面状に踏み固められた部分は認められない。遺物は須恵器の坏、高台付き椀等少量出土しただけである。

### 1号掘立柱建物跡

2-1~2-2グリッドに位置する。1号住居跡と重複し、本跡が古いと思われる。現状で東西2間×南北1間であるが、南側の調査区域外に延びる可能性が高い。東西約3.6mで、南北は1.8mを測る。柱穴の規模は径25~30cm、深さ40cm前後を測り、ほぼ円形の平面形状を呈する。建物の方はN-22°Eである。出土遺物はなく、遺構の時期は不明であるが、覆土や他の遺構の検出状況から平安時代に帰属すると考えている。

### 1号土坑

4-2グリッドに位置する。長辺1.9m、短辺1.25m、深さ15cmを測り、南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長軸方位はN-23°Eである。出土遺物はないが、覆土等の状況から平安時代に属すると思われる。

### 1号柱穴

3-1グリッドに位置する。径10cm、深さ14cmを測り、円形を呈する。須恵器碗が出土している。

## ③時期不明の遺構

### 小ピット群

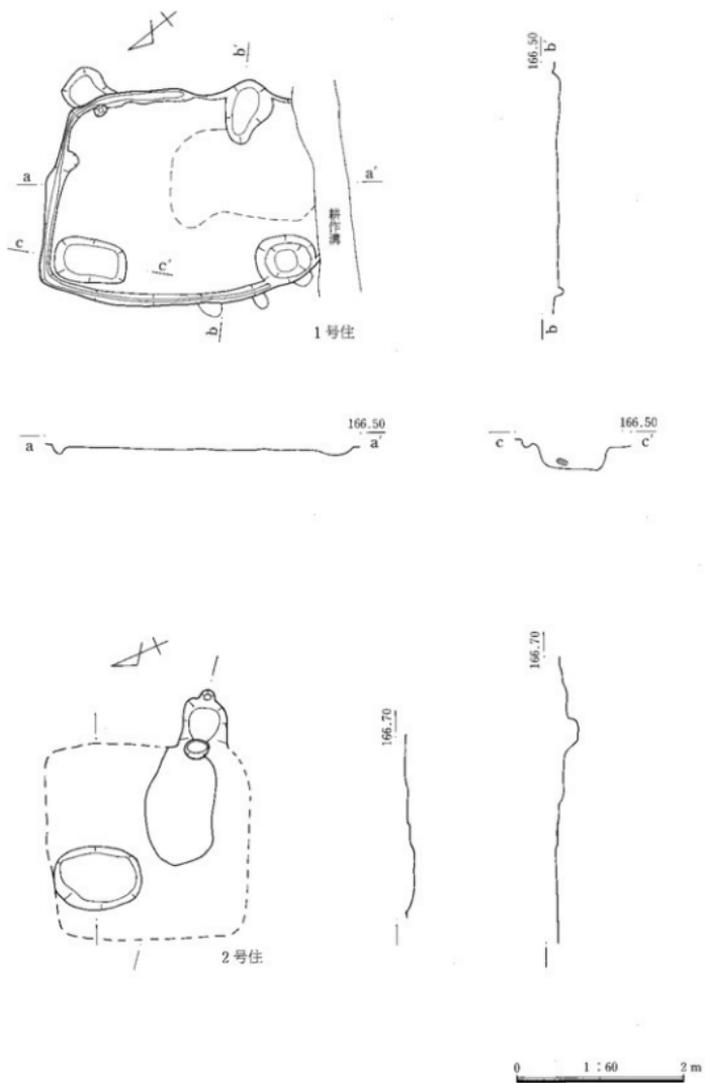
2-3~4-3グリッドを中心に位置する。覆土は黒ボク土を主体として堆積しており、軽石はほとんど検出されていない。ピットの規模は小さいもので径10cm前後から、大きなもので長径50cm×短径30cmまでである。深さは20cm未満のものがほとんどである。遺物は全く出土しておらず、明確な時期は不明であるが、覆土の様相からは縄文時代に属する可能性が高い。4-3杭の周辺に環状に巡り、さらに、南~南西方向に2列の直線的な配列も認められるが、性格等不明である。

## VI. ま と め

調査の結果、原之郷縄沢遺跡は平安時代の集落跡を中心とする遺跡であることが確認された。さらに、少量ではあるが縄文時代前期の遺物も出土しており、調査区域周辺には遺構の存在する可能性が大きい。

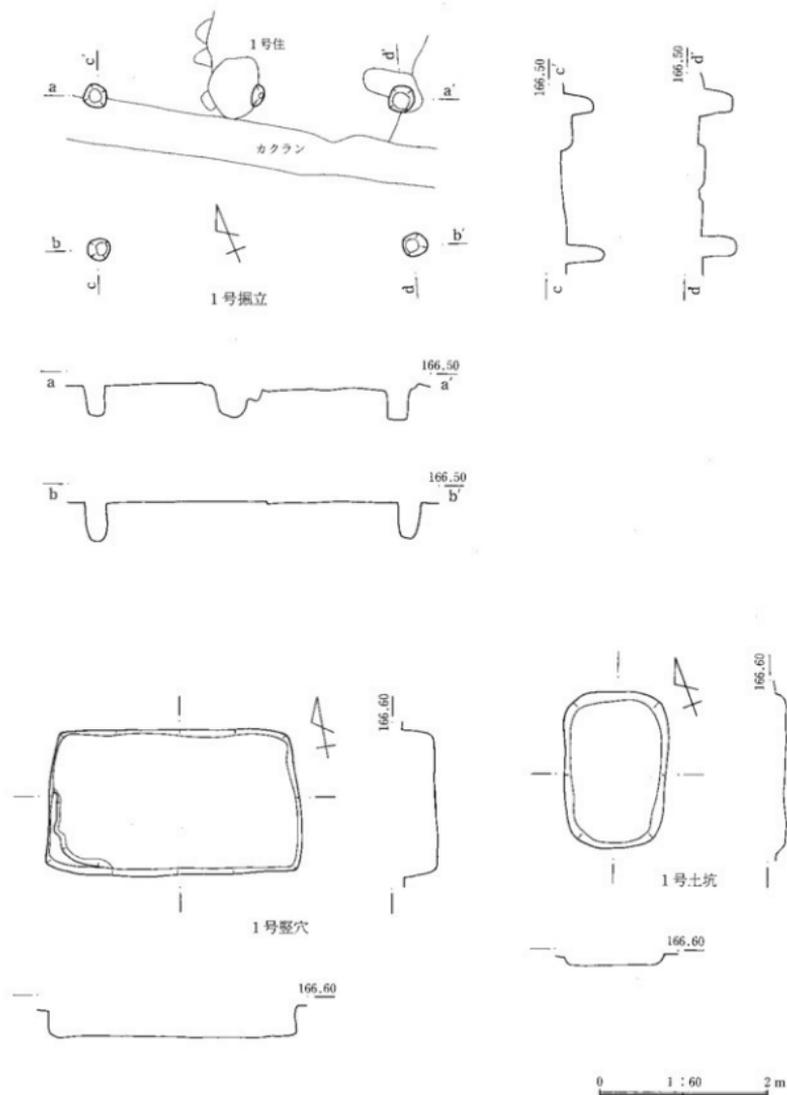
本調査地内で検出された遺構は竪穴住居跡2軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物跡1棟、土坑、柱穴等わずかであり、出土した遺物も多くない。しかし、試掘調査では本調査地の南側に、まばらではあるが4軒の竪穴住居跡が検出されており、周辺の遺物散布調査を行った結果、特に北側にはかなり広範囲にわたって平安時代を中心とする遺物の散布が認められていることから、平安時代の集落の中心は本調査地の北側に存在するものと思われる。

先述したとおり、原之郷地区の大半は赤城白川扇状地上に位置している。扇状地から外れる北端部、あるいは、扇状地上でも南端の旧利根川に面した台地上を除くと、ほとんど周知された埋蔵文化財の包蔵地はないと言ってよい状況である。確かに、縄沢遺跡の位置する台地の東側は氾濫原であり、これまで行った試掘調査の結果を見ても、埋蔵文化財の存在する可能性は少ない。しかし、この氾濫原の中でも中島状に遺物の散布する地点も数ヶ所確認されており、さらに、縄沢遺跡から西側は起伏が少ないとはいえ、台地が続いているため、これまで知られていなかった埋蔵文化財包蔵地が他にも数多く存在する可能性が大きい。

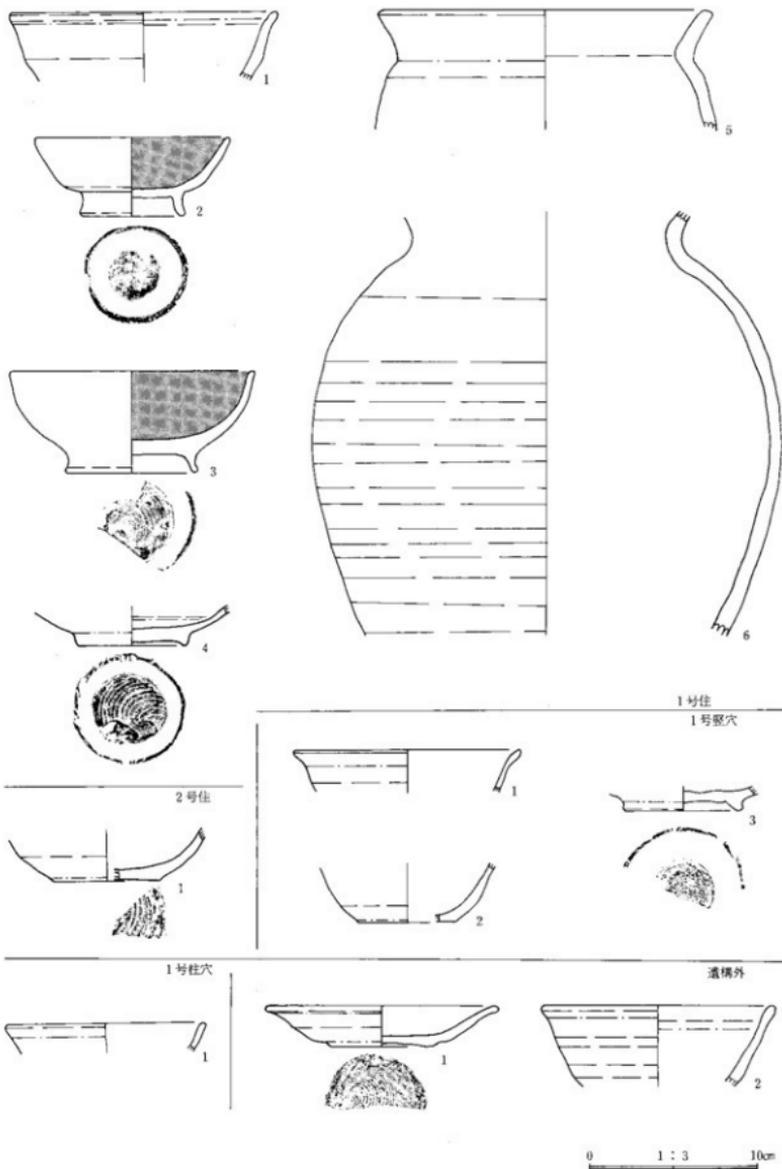


第4图 1·2号住居跡夹湖图





第5図 掘立柱建物跡、整穴状遺構、土坑実測図



第6図 出土遺物実測図

京之細瀬沢遺跡出土遺物観察表

番号	器種	出土位置 残存状況	法量 (cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
----	----	--------------	---------	-------	------------	----

1号住居跡

1	椀? 須恵器	南西土坑下層 1/6	口: 16.0	白色粗粒、砂粒 にぶい黄褐色～ 黒褐色	口縁で外反りする。 外面、内面とも回転ナデ。	酸化炭焼成。 内黒。
2	椀 須恵器	北西土坑下層 1/2	口: 11.6 台: 6.3 高: 4.7	砂粒 淡黄色～にぶい 黄褐色	底部は平底。外面: 口縁部雑なナデ、底部中央ヘラ ケズリ。内面: 体部下端～底部は不定方向のミガキ。 体上部はココミガキ。付高台。外面に撥合痕が顕著。	酸化炭焼成。 内黒。 外面にタール付着。
3	椀 須恵器	北西土坑下層 2/5	口: 14.5 台: 7.8 高: 6.1	白色・褐色粗粒 にぶい褐色～黒 褐色	全体的に丸みを持つ。口縁部内外面縦方向のミガキ。 底部～体部内面縦方向(放射状)ミガキ。 付高台後内外面とも丁寧に回転ナデ。	酸化炭焼成。 内黒。 外面にタール付着。
4	段皿? 灰胎陶器	西壁周溝中 台部完存	台: 6.5	砂粒、黒色粒 灰白色	内面全面施釉。体下部で小さく屈曲し、外反気味に 開く。底部は器厚が厚い。底部回転糸切り未調整。 右回転。付高台。	高台端にヘラ痕? が目立つ。
5	壺 土師器?	カマド燃焼部 1/6	口: 20.0	砂粒 にぶい褐色～灰 褐色	直線的な肩部から口縁部が外反気味に開く。 口縁部外面ヨコナデか? 内面全体ヘラナデか?	酸化炭焼成。 内面は特に剥落が 目立つ。
6	壺 須恵器	カマド燃焼部 東壁原床直 南西土坑 1/4	胴: 28.0	小礫、砂粒 褐色～にぶい黄 褐色	胴部下半は直線的に開き、上半は丸みを持つ。 外面は回転ナデ。内面は剥落が激しく不鮮明だが回 転ナデか。	酸化炭焼成。

2号住居跡

1	坏 須恵器	カマド 1/8	底: ( 6.3)	白色・褐色粗粒 褐色～灰褐色	内面底部と体部の境に残り沈着。体部内外面回転ナ デ。底部内面ナデ。底部回転糸切り未調整。	酸化炭焼成。 焼成普通。
---	----------	------------	-----------	-------------------	---	-----------------

1号竈穴遺構

1	坏 須恵器	フク土 破片	口: (13.6)	砂粒 淡黄色	内外面とも回転ナデ。	酸化炭焼成。 焼成普通。
2	坏 須恵器	フク土 1/8	底: ( 5.8)	白色粒、黒色粒 灰色	体部内外面とも回転ナデ。 回転糸切りか?	還元炭焼成。 黒色粒発色。 焼成普通。
3	椀 須恵器	フク土 1/2	台: 7.1	粗砂、片岩片	内面・体部外面回転ナデ。底部回転糸切り後付高台。 高台端部面取り。右回転。	半還元炭焼成。 焼成良好。 底層内外面に黒泥。

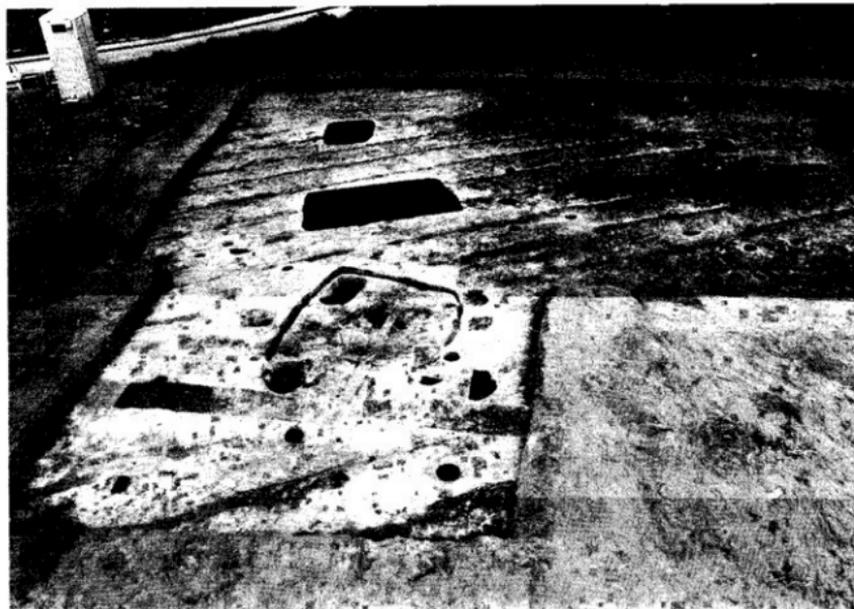
1号柱穴

1	坏 須恵器	フク土 1/6	口: 12.0	黒色粒 灰黄色	内外面とも回転ナデ。	半還元炭焼成。 軟質。 外面に煤付着。
---	----------	------------	---------	------------	------------	---------------------------

遺構外出土遺物

1	皿 須恵器	試験トレンチ 2/5	口: 14.0 底: 6.1 高: 2.5	白色粗粒、黒色 粒 灰色	歪みが多い。口縁部外反。 内面、体部外面ともに回転ナデ。右回転。 底部外面回転糸切り未調整。	還元炭焼成。 焼成良好。
2	椀 須恵器	試験トレンチ 1/8	口: (13.9)	白色粒、黒色粒 灰白色	内外面ともに回転ナデ。黒色粒発色。	半還元炭焼成。 焼成普通。

# 写真図版



1. 原之郷縄文遺跡西半部 (南から)



2. 原之郷縄文遺跡全景 (西から)



3. 1号住居跡 (西から)



4. 1号住居跡カマド (西から)



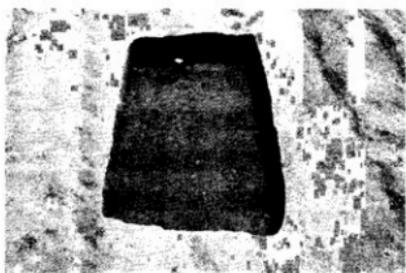
5. 1号住居跡北西隅土坑 (西から)



1. 2号住居跡（西から）



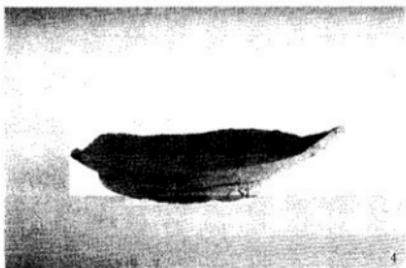
2. 1号掘立柱建物跡（西から）



3. 1号竪穴状遺構（西から）



4. 1号土坑（北から）



1号住居跡出土遺物

## 発掘調査報告書抄録

フリガナ	ハラノゴウウナギザワイセキ
書名	原之郷贖沢遺跡
副書名	事務所・工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	羽鳥政彦
編集機関	群馬県勢多郡富士見村教育委員会
編集機関所在地	〒371-0114 群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1 ☎ 027-288-6111
発行年月日	西暦1998年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
原之郷贖沢遺跡	勢多郡富士見村大字原之郷字贖沢	10303		36°26'20"	139°04'31"	19970415 } 19970425	340㎡	事務所・工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原之郷贖沢遺跡	集落	平安  時期不明	竪穴住居跡 2軒 竪穴状遺構 1基 掘立柱建物跡 1棟 土坑・柱穴 ピット群	須恵器、土師器	

## 原之郷鰻沢遺跡

事務所・工場建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年3月18日 印刷

平成10年3月25日 発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会  
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1  
電話 (027) 288-6111

印刷／朝日印刷工業株式会社